

平成29年度 学力向上推進プラン 6年

		学年の目標	2学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
基礎・基本	国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、友達と意見交換ができる児童を目指します。そのために、自分の考えを書く活動や、グループでの話し合い活動、付箋などを使って互いの考えを伝え合う活動を各教科の授業の中で行います。 新出漢字の定着(まとめの50問テスト80点以上を8割)を目指します。そのために、小テストを1週間に1回程のペースで行い、間違い直しをしっかりとさせます。総合平均点によって認定証を与えるなどして意欲を高めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードを使い、グループでの話し合いの結果をまとめることができました。 学期末のまとめのテストでは、65%の児童が1回で80点以上を取ることができました。復習も行い、定着率を高めました。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな教科においてホワイトボードを使い、グループ活動を行うことができました。またグループでの話し合いの仕方が年間を通して向上し、友達から意見をもらうことで活発な話し合いをすることができました。 漢字の小テストでは再テストを行うなどして、66%の児童が平均点で80点以上を取ることができました。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の定着(診断テストの四則計算の定着を見取る問題で正答率70%以上が7割)を目指します。そのために、家庭学習週間や放課後補習教室などで東京ベーシックドリルなどのプリントを使い、習熟を図ります。 文章問題を解く際は、まずは求めることは何かを正しく読み取ませ、立式することができるようにします。数直線で書き表すよう指導し、なぜその式になるのかを説明させて理解を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習期間に、分数のかけ算・割り算、分数・小数の混合計算や四則計算に取り組み、復習することができました。3学期明けに診断テストを行い確認します。 数直線で書き表すように指導しているものの、テストなどでは書かず誤答する児童がいました。今後も指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の定着ができていない児童が15%ほどいます。既習内容を復習してその都度間違い直しをしてきました。 復習を行う中で、文章題を苦手とする児童が20%ほどいました。文章題の分かっていることや、求めるものに線を引ながら、立式し、数直線を自分から書き表していけることが引き続きの課題です。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 読書量を増やします。そのために、マイブックをそばに持たせるようにし、朝読書の時間や、給食を準備する時間などに本に親しむようにさせます。読書貯金箱を活用し、読書量の伸びを自分で振り返りながら意欲を高めさせ、学期毎に10000ページへの到達度を確認するようにします。 ローマ字の定着を図ります。そのために、総合的な学習の時間にローマ字でタイピングをするようにしてローマ字を活用する機会を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの後や、給食準備時など、本を読む児童が多くなります。読書貯金箱に記入していない児童がいるので、記入するよう指導します。 家庭学習期間の宿題にローマ字を取り入れ、復習を図ることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書好きな児童が多く、すすんで読書をしています。しかし読書貯金箱に記入せずに、10000ページの到達度が把握できない児童が多くなりました。 家庭学習期間の宿題にローマ字を取り入れることで、すらすらと書ける児童が80%ほどに増えました。その結果、タイピングの速度もあがりました。
思考力・判断力・表現力	思考力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 自ら問題を見出し、自ら解決できる児童を目指します。そのために、授業の始めにめあてを明らかにして、見通しをもって学習に臨めるようにします。また、問題を解決するための手段や方法、まとめ方を自身で選択する機会を作り、学習したことを振り返ることができるノート作りを指導します。 自分が調べたことや考えを表現する力を高めるようにします。そのために、総合的な学習の時間では「はっぴょう名人」を活用し、プレゼンテーションを行うようにします。昨年度の活動を振り返り、よりよい表現の仕方について考えさせます。また、学校図書館の本積極的に活用し、本で調べることのよさに触れさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めにめあてを板書し、指導に当たっています。ノート作りも工夫が見られる児童がいますが、まだ写すだけの児童もいるので工夫できているノートを紹介し、参考できるようにします。 「はっぴょう名人」を活用して、オリンピック・パラリンピックについて調べたことをまとめています。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習期間に自主学習を重点的に行ったため、自ら課題をもち、調べ、工夫してまとめる児童が60%ほどに増えました。 総合的な学習の時間に「はっぴょう名人」ソフトを使用しました。調べたことや考えたことを相手に分かりやすいように情報を選択し、伝える力がつきました。
	学習習慣・学習規律	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く姿勢を意識できるようにさせます。そのために、友達が発表する時には話している人の方を向いて、落ち着いて話を聞くよう指導します。 宿題の提出率90%以上を目指します。未提出児童には声をかけ提出するよう指導し、場合によっては休み時間や放課後に指導します。また、宿題に加えて自主学習を推奨し、自らの課題に合わせて学年×15分＝90分以上の学習時間を確保するよう指導します。模範になる児童の取組を紹介し、参考にできるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 話をしている人の方を向いて聞くことがまだ定着できていない児童がいます。引き続き指導します。 宿題の提出率は70%程度のことが多いです。かなり低い数字なので、休み時間や放課後などにやらせることもありました。家庭の協力を得られるよう、引き続き指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く姿勢に課題が残る児童が20%ほどいます。引き続き相手の目を見て話を聞くようにすることが課題です。 自主学習の模範の児童を紹介することで意欲が高まりましたが、宿題の提出率が90%に達することはできず、75%程度でした。